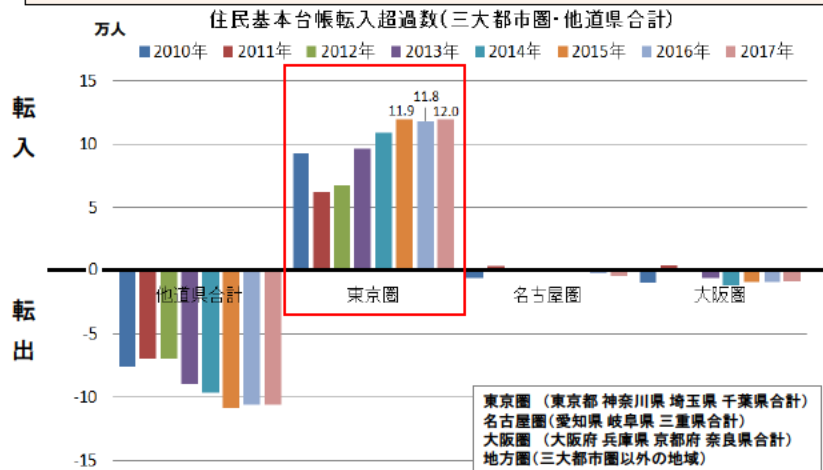


東京圏への転入超過

○ 東日本大震災後に東京圏への転入超過数は減少したが、2013年以降は震災前の水準を上回っており、2015年以降は約12万人の転入超過が続いている。

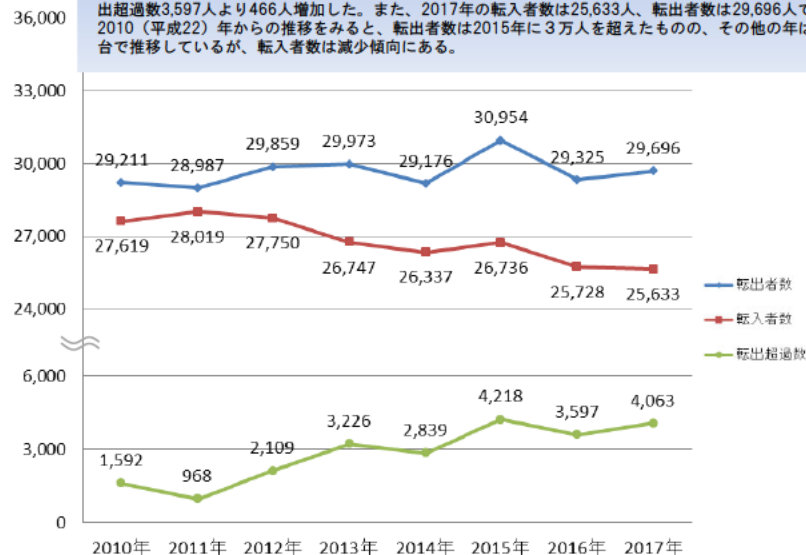


資料出所:総務省統計局住民基本台帳人口移動報告(2010年—2017年)

※内閣府 地方創生推進事務局 作成資料より抜粋

三重県における転出超過数、転入者数、転出者数の推移

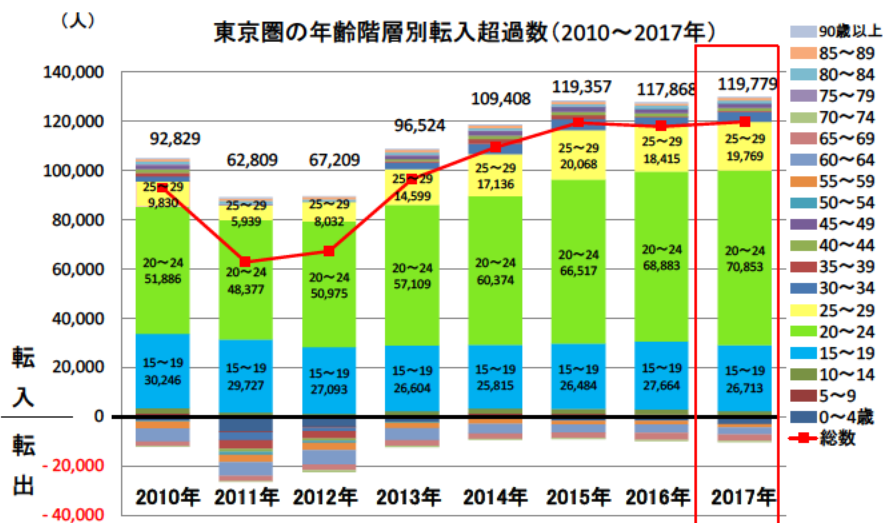
2017(平成29)年の住民基本台帳人口移動報告によると、転出超過数は4,063人で、2016(平成28)年の転出超過数3,597人より466人増加した。また、2017年の転入者数は25,633人、転出者数は29,696人であるが、2010(平成22)年からの推移をみると、転出者数は2015年に3万人を超えたものの、その他の年は29,000人台で推移しているが、転入者数は減少傾向にある。



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

東京圏への転入超過数(2010年—2017年、年齢階級別)

○ 東京圏への転入超過数の大半は15~19歳、20~24歳が占めており、大学進学時、大卒後就職時の転入が多いと考えられる。

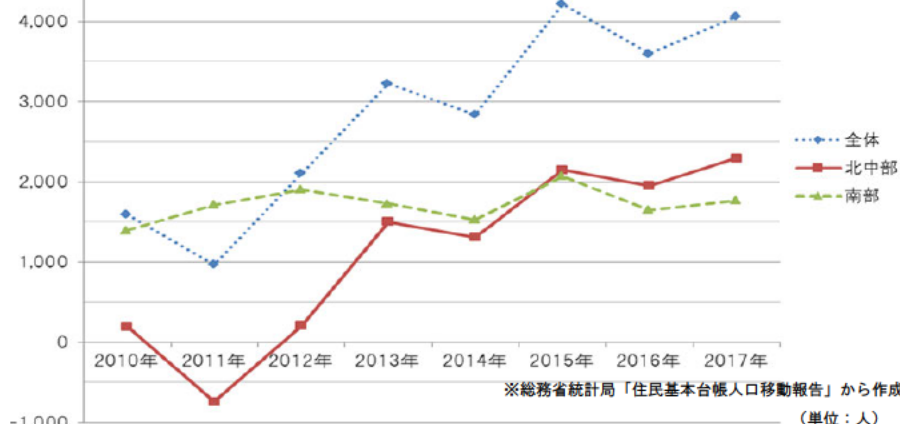


資料出所:総務省統計局住民基本台帳人口移動報告(2010年—2017年)

※内閣府 地方創生推進事務局 作成資料より抜粋

三重県における地域別転出超過数

転出超過数を地域別にみると、南部地域では1,500人から2,000人で推移しているが、北中部地域では2011年以降、増加傾向にある。



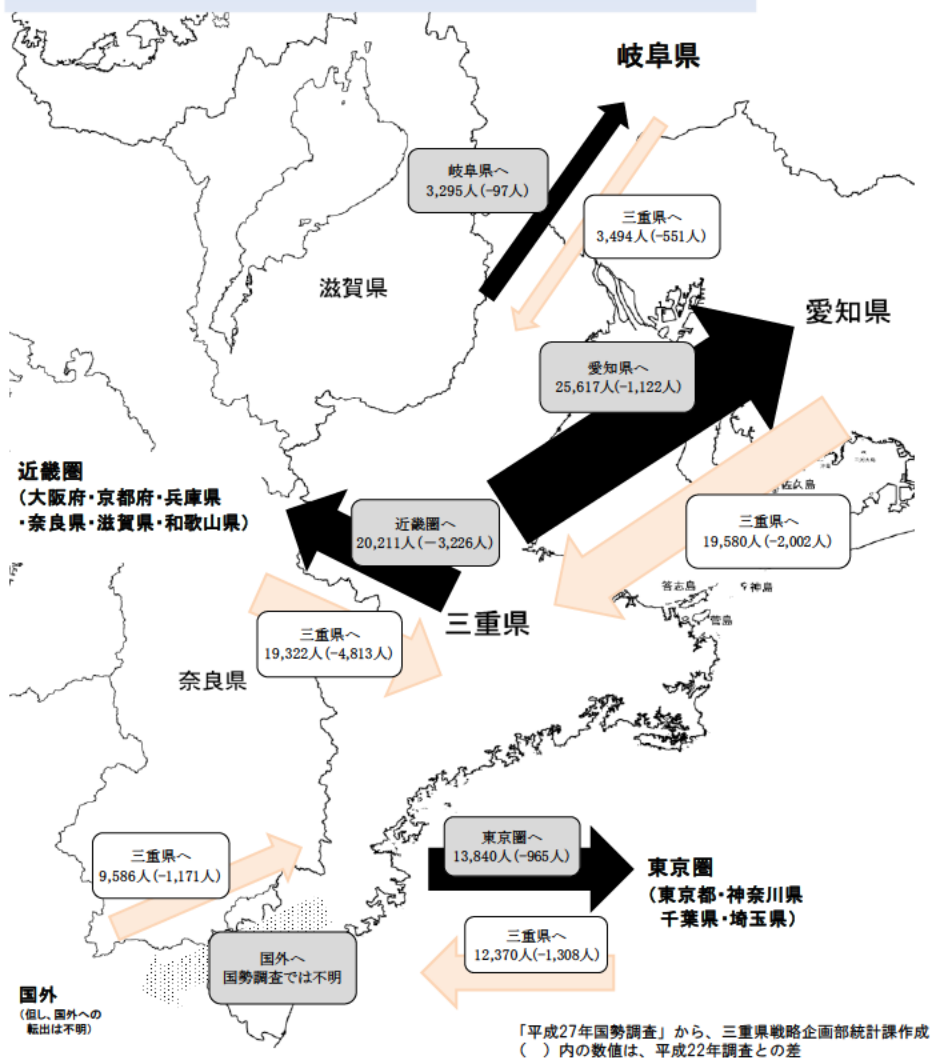
※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

北中部地域の内訳	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
転入	44,773	45,286	44,413	43,725	42,610	43,280	41,607	40,983
転出	44,969	44,542	44,619	45,227	43,919	45,429	43,558	43,278
転出超過	196	-744	206	1,502	309	2,149	1,951	2,295

三重県と近隣県、近畿圏、東京圏における転入者数、転出者数

平成27年国勢調査における「5年前の常住地調査」から人口移動の状況を見ると、転入者・転出者とも愛知県との間で最も多く、合計で6,037人の転出超過となっている。東京圏・近畿圏との間では、それぞれ1,470人、889人の転出超過となっている。

(単位:人)	愛知県	岐阜県	近畿圏	近畿圏	国外
三重県へ(転入)	19,580	3,494	12,370	19,322	9,586
三重県から(転出)	25,617	3,295	13,840	20,211	-
転入-転出	△6,037	199	△1,470	△889	-



通勤者からみる県外との関係(通勤者数1,000人以上)

三重県内から近隣県へへの通勤者数は、図内に示したとおり愛知県が最大となっている。

(単位:人)	愛知県	岐阜県	滋賀県	大阪府	奈良県	和歌山県	全体
三重県へ(流入)	14,373	3,603	1,600	1,731	4,066	1,268	31,066
三重県から(流出)	34,287	1,339	1,467	5,206	3,035	2,299	51,029
流入-流出	△19,914	2,264	133	△3,475	1,031	△1,031	△19,963

全体では、県外への通勤者(流出:51,029人)が、県内への通勤者(流入:31,066人)を19,963人上回っている。平成22年調査時との比較では、流出0.8%増、流入16.0%増と、流入の伸び率が上回っており、流出超過(23,848人→19,963人)は、約4,000人の減。特に大阪府、奈良県、和歌山県との関係では、流出が減少し、かつ流入が増加している。愛知県との関係では、流出の増(271人)に比べ流入の大幅増(1,687人)となっている。

